

第10回 AAAP（アジア・大洋州畜産学会）招待講演

高 橋 潤 一

畜産科学科畜産生命科学講座教授

1. 目 的

第10回 AAAP（アジア・大洋州畜産学会）招待講演

2. 期 間

平成14年9月22日～平成14年9月29日

3. 場 所

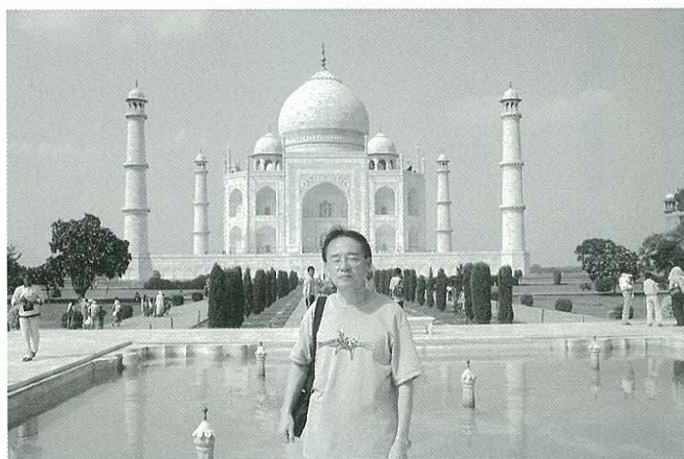
インド・ニューデリー市

4. 内 容

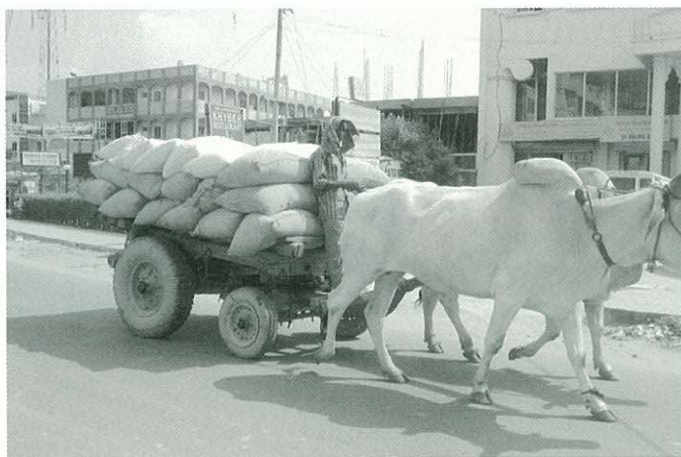
昨年9月22～27日、インド・ニューデリーで開催された第10回アジア・大洋州畜産学会(AAAP)において招待講演を行った。AAAP(アジア・大洋州畜産学会)はアジア・大洋州地域の諸国で3年ごとに開催されている大規模な畜産学会で、日本畜産学会、オーストラリア、ニュージーランド及びアジアの各国畜産学会が加盟しているが、近年の本会議には欧米からの参加も目立ってきている。前回2000年の第9回大会はオーストラリア・シドニーで開催された。前々回1997年にはわが国に初めて招致したこともあり、幕張メッセを会場に秋篠宮殿下ご夫妻を開会式に迎えて華々しく開催された。今回の会議のテーマは“Animal Production for Environmental and Food Security”「環境と食の安全のための家畜生産」でタイムリーな企画であった。しかし、折しも印・パ紛争の一触即発の時期であり、旅行の安全の問題、インド組織委員会の大会運営等に若干懸念されるものがあつた。幸い会議開催中危険なことはなかったが、大会運営の面では困惑させられることが多々あつた。インドで開催された過去の国際会議では余り良い評判は聞いていなかったもので、予想はしていたが、組織委員会はかなり混乱していたようだった。離日前日に申し込んだはずのホテルの予約が入っていなかったことがわかったり、プログラム上では筆者の講演が二回行われることになっていたり、学会会場に登録に行ったら、基調講演のはずが、受付の係にポスター発表かと訊かれたりと哑然とするような運営状況であつた。開会式はインドのTV局など多くの報道関係者を呼んで、仰々しく開催された。今回の講演題目は Suppression of rumen methanogenesis by alternative reductions で温室効果ガス低減を目的とした反芻胃内メタン生成の抑制方法に関するもので、学会

に先立ち、12 ページの総説論文の提出を要求された。講演終了後、フロアから多くの質問があり、この課題に対する関心と反響を肌で感じることができた。インド滞在2日目から運悪く水に当たり、体調を壊したが、幸い講演日は初日であったため、無事に役割を終えることができた。今回の本国際学会招待に当たり、会議参加費、バンケット、旅費等の支給があると訊いていたが、これらの約束は全て組織委員会に反古にされた。国際会議の華であるバンケットは経済的理由により組織委員会の方からキャンセルされた。そればかりではない。国際会議のアブストラクトは会議当日に渡されたが、プロシーディングは未だに刊行されていない。従って、筆者の論文は宙に浮いたまま行方不明のままである。前代未聞の出来事であった。しかし、インドは今も厳然たるカースト制度が存在し、官庁街のニューデリーに隣接するデリーの街に一步足を踏み入るとこの国の様子を窺い知ることができる。そこはまるでカオスであった。しかし、混沌のカオスも数学上ではある法則の下に機能しているはずである。ヒンズー教が大多数を占めるこの国では聖獣の牛は悠然と雑踏の道路で寝そべっていた。数日間の滞在であったが、われわれの常識では計り知れない驚愕の国際会議であり、大変貴重な経験をすることができた。

今回の会議参加に当たり、ご支援頂いた帯広畜産大学後援会に深甚の謝意を表します。



タージマハールにて



役畜としてのインドゼブー牛



燃料としての牛糞の行商



常食のカレー



AAAP 会場 Ashok ホテル



招 待 講 演